

会議の要旨（議事録）

会議の名称	第1回 鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
開催日時	平成30年11月28日(水)	開催場所	鳥栖市役所2階第2会議室
出席者数	委員 6人 市 2人 事務局 3人	傍聴人数	0人
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 委嘱状の交付 4. 会長・副会長の選出 5. “鳥栖発”創生総合戦略の進捗等について 6. その他 		
配布資料	<p>【資料①】 会議次第 【資料②】 鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員 【資料③】 鳥栖市まち・ひと・しごと創生本部等に関する体制図 【資料④】 まち・ひと・しごと創生基本方針2018について 【資料⑤】 地方創生関連交付金事業の効果検証について 【資料⑥】 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）活用事業の進捗状況について 【資料⑦】 県の地方創生関連事業との連携について 【資料⑧】 “鳥栖発”創生総合戦略 平成29年[2017年]改訂版の進捗状況について</p>		
所管課	(課名) 総合政策課 (電話番号) 85-3511		

第1回鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

1 開会

事務局（総合政策課長）

2 市長あいさつ

- ・ 今年度は5ヵ年計画の4年目を迎え、地方はより一層の努力が求められる。
- ・ 平成27年国勢調査において、鳥栖市の人口増加率は前回調査時から5.54%の増加となっており、全国の市区町村のうち22番目の高さを示している。
- ・ 引き続き、こうした本市の強みをさらに高めていくことが非常に重要であるため、事業の効果検証や見直しといった「PDCAサイクル」において、引き続き委員の皆様のお力を賜りたいと考えているので、委員の皆様には様々なご意見をお願いしたい。

3 委嘱状の交付

委員については、資料②参照

4 会長・副会長の選出

会長：戸田 順一郎氏 副会長：牟田 忠儀氏 に決定

5 “鳥栖発”創生総合戦略の進捗等について

議題1 まち・ひと・しごと創生基本方針2018について

（事務局） 国の「まち・ひと・しごと創生基本方針2018～わくわく地方生活実現パッケージ」について説明

議題2 地方創生関連交付金事業の効果検証について

（事務局） 平成26年補正予算から設立された地方創生関連交付金の活用経過と今後の活用予定に関する説明。また、各交付金事業における重要業績評価指標（KPI）に対する実績報告

議題3 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）活用事業の進捗状況について

（事務局） 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）活用事業の進捗状況について報告

（牟田副会長）本市における地方創生関連交付金の交付額は増加しているのか。また、企業版ふるさと納税活用事業について、㈱サイゲームスがサガン鳥栖のスポンサーを引き上げたとの報道があったが、本事業への影響はないのか。

（事務局） 現在の地方創生関連交付金の活用状況については、ふるさと・しごと創生推進事業で地方創生推進交付金996千円の交付決定を受けている。平成26年度補正予算で地方創生関連交付金が創設された当初は補助率が10/10だったこともあり、数千万円単位の事業費となっていたが、現在は補助率が1/2となっている。また、企業版ふるさと納税について、先般、㈱サイゲームスがサガン鳥栖のオフィシャルスポンサーを降りるとの報道がなされたが、企業版ふるさと納税に関する寄附については、申出いただいた内容で寄附をいただけると伺っている。

議題4 県の地方創生関連事業との連携について

（事務局） 県の地方創生関連事業との連携について説明

（牟田副会長）移住者インタビューで取材された方は、町区の行事にも積極的に参加されている。気さくな若い方に移住していただき非常に嬉しい。また、鳥栖卓球センターの岡本さんについても、昨日、仕事でお会いした朝倉市の方が卓球をされる方で、鳥栖卓球センターに通われているとのことだった。

- (戸田会長) 移住者にとって、地域に受け入れられてもらえるかという点は一番の心配事であるため、副会長が言われたように、移住者の方が地域から受け入れられている様子がうまく伝わっていけば、今後の鳥栖市のためにもなると思う。
- (中村委員) 滞在型農園施設付属施設改修工事について、現在改装中かと思うが、お客さんから尋ねられることもあるため、改装完了時期や改装内容などの情報についても教えていただくとありがたい。
- (牟田副会長) 滞在型農園施設について、せっかく綺麗に改装していただいているので、たくさんの方に来ていただきたい。
- (事務局) 滞在型農園施設の改修工事の状況については、分かりやすくお伝えできるよう、すぐに対応したい。
- (中村委員) 観光協会も滞在型農園施設の改修に関する情報を持っていない。研修や合宿などにちょうど良い施設であり、温泉施設も改修されるとのことなので、是非たくさんの方にご利用いただけるようにご案内したい。
- (古川委員) お試し住宅の取組は非常に良いが、このペースで良いのか。福岡からの日帰りツアーは何十人の方がまとまって来られるので、もっと行って良い。しかし、人口増加が前倒しとなっている中で、お試し住宅の利用が数件では少し疑問に思う。
もう1つ、鹿島市では山がなだらかでマラソンの練習に最適なことから、箱根駅伝出場校の合宿誘致し、毎年5～6大学が2週間程度の合宿に訪れている。鳥栖市は交通の便が良く、サガン鳥栖も盛り上がっているため、市を挙げてスポーツ合宿誘致に取り組んでも面白いのではないかと。若い方に目を向けてもらうという意味では有効ではないかと思う。
- (事務局) お試し住宅については、他自治体では街中に作られることが多いが、鳥栖市ではあえて山あいの場所に作っている。鳥栖市は交通の要衝や、内陸工業などのイメージが強いため、市街地の近くにこれだけ自然豊かな場所があるという、広告塔のような役割を期待している。実際の利用者数が伸びると良いが、いずれはツアーの受け入れのような利用も考えたい。いずれにせよ、様々な資源がある一方で活かされてない面があるので、引き続き努力して参りたい。
- (芹田委員) 福岡からの日帰り移住体験ツアーについて、本当に移住を考えてもらうのであれば、夏休みに家族揃って実際に見てもらうことは良いことだが、参加者がどのような感想を持たれたのかという点と、何組ぐらいの方が参加されたのかお伺いしたい。
- (事務局) 参加者については、友人のお母さん同士もしくは、お母さんがお子さんを1、2人連れての参加がほとんどであり、男性の参加は少なかった。組数については後ほど報告したい。行程については、河内町お試し住宅、ベストアメニティスタジアム、古民家カフェリンコットと周り、参加者には大変喜んでいただけた。福岡天神との距離的な近さをはじめ、市の様子を実際に体感していただける有意義な取組となっている。
- (芹田委員) 次年度以降もこうした移住体験ツアーは継続されるのか。
- (事務局) 県主催により、県内各市町で開催されている。今回が鳥栖地区では初めてであったため、引き続き鳥栖での開催をお願いしていきたい。
- (芹田委員) 行政の取組なので難しいかもしれないが、土日開催できないか。先ほどの話では、子連れの母親の参加が多いとのことなので、平日の参加が難しいお父さんも含めて、家族揃って参加しやすいようにすれば、より事業の目的に適うのではないかと思う。

(事務局) 移住相談会などは土日に開催しているため、体験ツアーについても、より多くの方にご参加いただけるような手法を県と相談していきたい。

(戸田会長) 体験ツアーについて、県では、どのような方法で情報発信を行い、参加者はどういったきっかけで申し込まれたのか。

(事務局) 県では体験ツアーをラブFMに委託をされていることから、ウェブはもとより、福岡エリアでのFMラジオによる情報発信を行っており、ターゲットにリーチしやすい面があると考えられる。

(古川委員) 東京オリンピックが控えており、様々な地方が合宿誘致に手を挙げているが、合宿誘致は市の良い宣伝になると思う。これだけの施設が市内にあり、交通の便も良いため、良い機会ではないかと思うが。議題が「県の地方創生関連事業との連携について」とのことなので、県と組んで取り組んでも良いのではないか。

(事務局) 市としては、現時点では具体的なものはないが、県ではスポーツ合宿や国際大会の練習会場などの誘致を積極的に進めていることから、市単独では難しい面があるので、こうしたスキーム等も活用してスポーツ施設などの資源の有効活用を考えていきたい。

議題5 “鳥栖発”創生総合戦略 平成29年[2017年]改訂版の進捗状況について

(事務局) “鳥栖発”創生総合戦略 平成29年[2017年]改訂版の進捗状況について説明

(中村委員) 「観光施設・イベント等の集客数」について、こういった場所の数値をカウントされているのか。また、「鳥栖駅利用者数」の出典はどちらからか。

(事務局) 「観光施設・イベント等の集客数」については、佐賀県観光客動態調査による数値であり、内訳については別途お示ししたい。「鳥栖駅利用者数」についてはJR九州による数値となっている。

(中村委員) 2015年よりも市への外国人観光客は増えており、特に、この2年ほどで大きく増加している。鳥栖駅周辺のホテルでは、個人で利用される方がとても増えているそうであり、リピーターも増加しているとのことである。こうした状況を踏まえて、観光分野においてどのような手立てを打っていくかは非常に大事なため、まち・ひと・しごと創生の面で市に貢献できるように、外国の方の流れを良い方向に持っていかれると思う。

また、外国人が鳥栖の学校に勉強に来て、鳥栖で就労することもあるのではないかと。現在、インターンシップで受け入れている韓国の学生5名も鳥栖を気に入っており、卒業後は鳥栖に戻って来たいと言っているため、外国人については、隠れたニーズもあるのではないかと。と思う。

(事務局) 外国人観光客については、佐賀空港でのLCC台湾便の就航などもあって非常に増えてきているため、どのように受入れていくのかは今後の課題である。

(中村委員) 残念ながら観光の目標値が80%位なので、観光協会も含めて頑張らなくてはと思う。

(芹田委員) 今年度は、総合戦略の期間である5カ年の4年目とのことだが、国としては第2期総合戦略を策定するものと考えてよいのか。そうであれば、今日の会議ではポジティブな話題が多いが、ネガティブなところを少し話すと、近隣の久留米、小郡から鳥栖に働きに来られている方などから、鳥栖は横の繋がりが少ないとか、外部の人にとって

は排他的に感じられることがあるといった意見を聞くことがある。

外部から鳥栖に来てもらうための魅力の伝え方として、観光や住みよさは強みになるかとは思ふ。しかし一方で、女性管理職も多少は増えているかとは思ふが、今日、参加されている市職員は全員男性であるところを見ると、女性の活躍はどうなっているのかなとも思ってしまう。海外の方についても鳥栖市では増えているが、「海外の方とも一緒に暮らしていこう」といったように、市民の意識はきちんと変わって行っているのかといった、「多様な人が暮らしやすい」といった視点が鳥栖市でも必要になってくるのではないかと思う。

日本の人口が減っていく一方、東京五輪、大阪万博などで今後も都会に人手が集中していくとなると、地方が住みやすさを訴える時に「子育てしやすいですよ」という伝え方は、ある意味「女性が子育てするもの」という発想に立っているようにも思えるので、「女性も企業や行政で活躍しているし、男性が子育てしやすい」といったような、他所とは違う暮らしやすさのようなものを発信していかないと、どこの自治体も取り組んでいることだけの総合戦略になってしまう。

例えば、求人を出しても人が集まらない状況がある一方で、資格を持たない人は仕事がなく困っているとも聞いたので、働きたいけど仕事を持っていない人にどういう施策を行っていくのかといった、「色んな人が」という視点が現状では足りていないと思うので、次の目標を立てる時には必要だと感じた。今年度実施される市民満足度調査などからも意見を拾いながら検討してほしい。

(牟田副会長) 芹田委員が言われるとおり、資格を持たない方は就職において厳しい面がある。例えば、建設関係で国、県等の仕事を請け負う場合、資格を持たない方は現場に入れなない場合があるため、どうしても採用することが難しくなってしまう。

(芹田委員) 福祉施設の現場も同様で、資格がないと国が定める人員の基準にカウントできない。人柄が良くても資格を持たれていないために、雇いたくても雇えないといった難しいミスマッチが起きている。

(牟田副会長) 職業安定所には若い方が多く来られているが、短期間働いては退職して失業保険を受け取るといったことを繰り返す方も少なくないと聞いた。

(芹田委員) 今後、AIの進歩により仕事の部分でも変化が起きてくると思う。鳥栖市だけで考えられることではなく、国レベルでの話になると思うが、人がいないのではなくて、働きたくても資格がないなどの理由から働けない人がいることを踏まえて、「住みやすい、働きやすい」といった視点を考えてもらえるとありがたい。

(古川委員) パートの方は正社員になるために辞められる傾向がある。そのため、パート職員は人手不足の状況にある一方で、正社員の求人は少ない。本当に鳥栖に住んで働きたい方は正社員になりたいが求人がない。人を集める上でそこを勘違いしてはいけない。

(芹田委員) まさにそこが難しい点で、正社員で雇いたい場合には資格が求められるが、資格を持たない方が多いため、正社員を募集しても雇用できる方が集まらないといった問題がある。

(事務局) 来月から2,000人を対象とした市民満足度調査を実施するため、代表的かつ広く浅くといった意見になると思うが、多様な人の暮らしやすさといった視点など、現在の戦略では捉えきれない部分についても次の戦略に反映していきたい。

(重松委員) 女性の社会進出促進事業として起業セミナーなどをされているが、セミナーを受けることによって起業時のメリットなどは付加されているのか。

(事務局) 特定創業支援事業としてのセミナーを受講していただくと、登録免許税の軽減等が受けられることなどをお知らせしている。

(重松委員) 鳥栖市では、セミナーの1回あたりの開催時間はどれくらいか。また、保育園等の待機児童数について、地区的な偏りなどの問題はあるか。

(事務局) 創業支援セミナーについては1回あたり2時間程度で開催している。待機児童数については、地区的な偏りはないと考えている。待機児童の定義にもよるが、待機児童数は減少している。しかし、希望する保育所に入れない方は一定おられる状況である。

(重松委員) そうしたことが、ひいては放課後児童クラブの待機児童につながっていくのではないかと懸念している。

放課後児童クラブも人員不足がある一方で、色んな子ども達に対応していかなければならない職員の方は気苦労も多いだろうから、スキルアップなども含めて市でバックアップをしていただければ助かると思う。

6 その他

(事務局) 次回は年明けに開催したい。現在の総合戦略は平成31年度までの計画となっており、国も第2期総合戦略策定を予定している。市においても、来年度は第2期戦略策定を予定していることから、委員の皆様には引き続きご協力をお願いしたい。